

平成 28 年度

提 言 書

福祉・環境のまち部会

テーマ：「福祉の心を大切に育てる地域の力」

～高齢者の生活支援～

～家庭での子育て支援～

1 はじめに

新見市では、数年後には高齢化率 40～50%が予想され、高齢者のみの世帯や高齢者の一人暮らしが多くなり、病院への通院や日常生活の買い物などにおいても苦慮する人が増えると予想されます。

一方、子育てについては、働く親が増える中、基本的な生活習慣やしつけなどを保育所等に任せきりになるなど、放任傾向も多く見受けられ、子ども達が家族とのふれあいを十分持てないケースがあります。また、核家族化により、子育ての相談や、手助けをしてくれる人が近くにおらず、苦勞している親が多くなっています。

このような状況の中で、本部会において「生まれた土地」では永住を望み、「市外、県外の土地」からは移住したくなるような魅力的なまちにするために高齢者への対策として「高齢者の生活支援」、そして核家族等による子育ての悩み対策として「家庭での子育て支援」に焦点を当て、調査・研究を行い、協議を重ねてきました。

2 視察研修

「高齢者の生活支援」と「家庭での子育て支援」対策として次の町と市で視察を行いました。

1) 高齢者の生活支援対策として「勝央町ファミリー・サポート・センター事業」の視察

勝央町は平成 28 年 4 月 1 日現在の人口が 11,272 人、高齢化率は 29.3%で、高齢者が地域の中で安心して暮らせるよう、簡単な家事等の援助を行う生活援助型の事業を平成 26 年 6 月から町の委託事業として、平成 28 年度は約 400 万円の委託料で取り組んでいます。

生活援助型事業とは、生活援助を依頼する会員と提供する会員が勝央町ファミリー・サポート・センターの会員となり、高齢者の方やその家族が地域の中

で安心して暮らしていけるように生活援助を行うもので、「手助けをしてほしい方」と「手助けをして下さる方」が会員となり、援助し合う取組です。

やがて新見市においても、対処を求められる超高齢化社会を迎えることとなるため、今後の高齢者問題対策に大変参考になる取組であると感じました。

2) 子育て支援対策として美作市へ「人おこし事業（ひきこもりの子たちへの支援）」の視察

近年、若年層のひきこもりや登校拒否の要因は幼少期の子育て支援が課題となっており、美作市での取組を調査しました。

美作市の地域おこし協力隊として都市部から来た若者が空き家を改修し、山村シェアハウス事業を立ち上げ、当初は都市部からのあらゆる若者を受け入れる事業として運営していましたが、ひきこもりの男の子が、そこでの生活をする中で良い方向に変わっていったことをきっかけに、「人おこし事業」として取り組んでいます。ひきこもりの子たちにとっては、支援者が何とかするのはなく、本人が成長することが大事であり、成長しやすい環境を作ることが大切であることを聞き、身近な生活での子育ての重要性を感じました。

3 提 言

1) 「高齢者の生活支援」について

新見市の平成28年4月1日現在の人口は31,098人で、高齢化率39.2%となっており、今後も益々高齢者世帯や高齢者の一人暮らし世帯が増えていくことが予想されるため、高齢者への生活支援対策が急務となっています。

その対策の一つとして、健康な高齢者を中心としたボランティアによる支援組織を立ち上げ、対応することとし、勝央町が実施している方式を参考として、次の事業を提言します。

(事業主体者)

新見市

(実施事業者)

新見市が社会福祉法人・認定NPO法人へ委託する。

(サービス地域)

新見市全域

(サービス提供者)

40歳以上の新見市在住者、又は、市内に勤務している者

(サービス利用者)

65歳以上の高齢者で、市内の自宅に居住している者

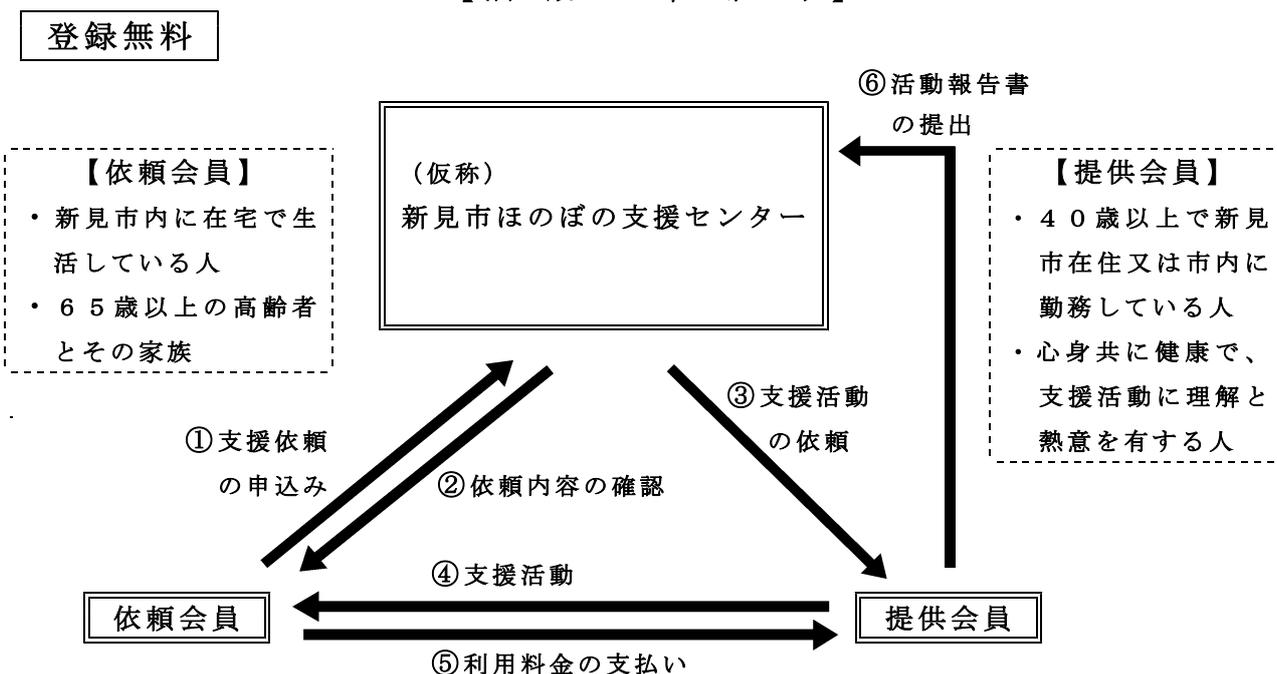
(生活支援の内容)

簡単な家事などの支援

(サービス料金)

- ・ 平日（午前7時～午後7時） 1時間あたり 500円
- ・ 早朝、夜間、土日祝日 1時間あたり 800円
- ・ 支払いは、サービス利用者がサービス提供者へ直接行う。

【活動の仕組み】



上記の事業を行うことで、次のような効果が期待されます。

- ・ 急な依頼が発生しても対応が可能になる。
- ・ 有償ボランティアなので、気兼ねなく依頼できる。
- ・ 社会参加ができて気持ちに張り合いが出てくる。
- ・ 介護を必要とする高齢者の生活支援により、「弱者」をサポートできる。
- ・ 気軽に生活支援を受けることができ、高齢者にとって住みよい町となり、人口減少にブレーキをかけることができる。
- ・ 日常生活に密着した生活支援により、高齢者やその家族が地域の中で、安心・安全に暮らしていける。
- ・ 共助の心が養われ、他分野でのボランティア活動が盛んになる。

2) 「家庭での子育て支援」について

近年、子どものひきこもりなどによる生活習慣の乱れ、社会的マナーの欠如、青少年の引き起こす犯罪等が話題となっており、家庭教育のあり方が問われています。家庭教育力低下の背景には、保護者自身の問題だけではなく、少子化、核家族化、労働状況の変化等、社会的な要因も大きく関係しています。

子育ては親育ちであり、苦勞しながらしっかりと向き合い子育てを行うことで、親も成長します。また、子育ては人間育てでもあり、「楽」をしては育ちません。

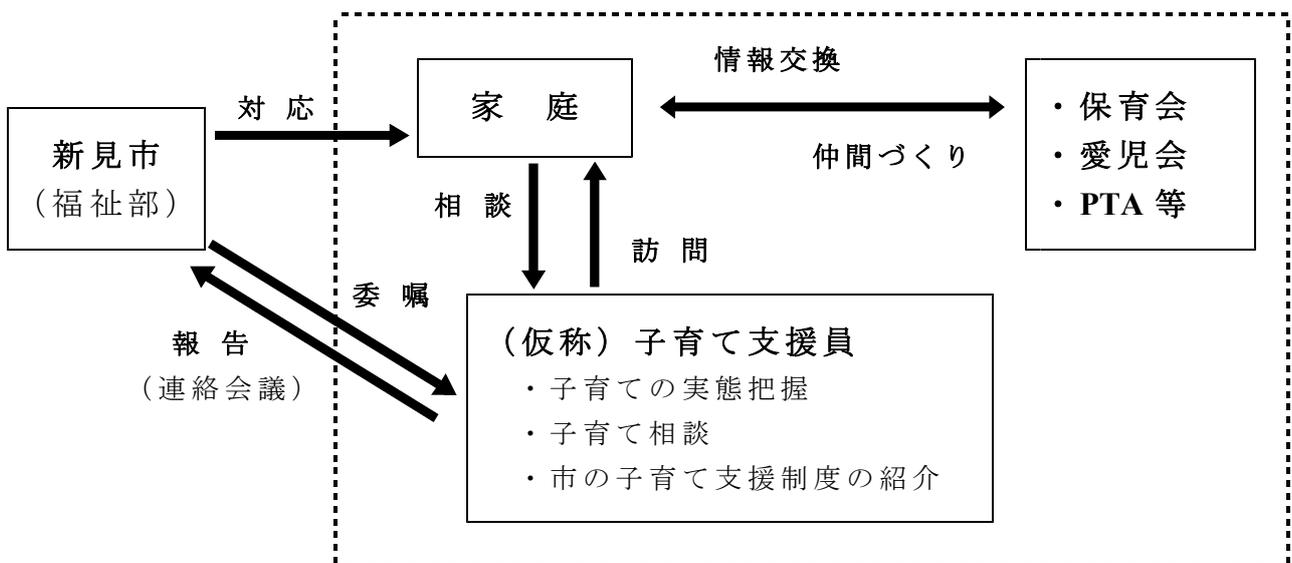
また、市が実施している様々な子育て支援制度がありますが、それらを知らない若い保護者が多く存在しており、十分に活用されていないと思われます。

そうしたことから、子どもが家庭や地域で温かい愛情を受けて、豊かな心や地域への思いを大切にする心を育てるためにも、次の事業を提言します。

- ・ 地域（おおむね旧小学校区）ごとに（仮称）子育て支援員を委嘱配置し、地域内の子育て家庭を訪問する。地域・家庭での子育て状況を把握し、子育ての悩みや心配事の相談対応を行うとともに、子育てに関する市の支援制度の紹介などを行う。
- ・ 保育会、愛児会、PTAなどに協力を依頼し、保護者同士の情報交換を行い、子育て仲間づくりを推進する。
- ・ 既存の支援制度や施設について、積極的に広報を行い利活用を促進する。

【活動の仕組み】

（----- 枠内が旧小学校区地域）



上記の事業を行うことで、次のような効果が期待されます。

- ・ 保護者の子育てに対する不安や心配事が軽減し、地域で安心して子育てができる。
- ・ 子育ての喜びや幸せを感じ、親子の絆や地域の絆が深まる。
- ・ 子ども時代を豊かで幸せに過ごし、郷土への愛情、夢や希望が育つ。
- ・ 親は子育てにしっかり向き合い、子どもへの愛情が深まる（親育ち）。

4 まとめ

新見市の少子高齢化は益々進行し、人口減少も歯止めがかからなくなっている中、高齢者には生活に優しく、終の住処となるまちとして望める地域づくりを、次世代を担う若者たちには、新見市での生活に夢と希望を抱けるまちづくりに取り組まなければなりません。

そのためには、テーマに掲げた「福祉の心を大切に育てる地域の力」を再構築し取り組むことで、「隣近所の助け合い」つまり、昭和30年代の生活にはどこでも見られた「共助の心」があふれた地域づくりを目指すことが必要と考えます。

元気な高齢者が中心となってボランティア組織を立ち上げ、支援が必要な高齢者をサポートすることは、高齢者にとって住みよいまちづくりが実現でき、また、幼少期を心豊かで幸せに育てられた人たちが、この地で夢や希望を持つ事ができれば、地域の福祉力の向上につながり、次世代へ引き継がれるようになっていくと考えます。

「高齢者の生活支援」、「家庭での子育て支援」に取り組むことによって、新見市が、安心・安全が保たれた明るく豊かな生活が育てられるまちになり、それを定着・発信することで、定住人口の増加にもつながり、より活力と魅力に満ちたまちになることと思われまます。